

平成 31 年度

事業計画書

公益財団法人 東京動物園協会

目 次

第1	運 営 方 針	1
第2	公 益 目 的 事 業	
	Ⅰ. 事 業 計 画	2
	〔1〕 飼 育 ・ 展 示 事 業	2
	〔2〕 野 生 生 物 保 全 事 業	4
	〔3〕 教 育 普 及 事 業	6
	〔4〕 市 民 ・ 団 体 と の 協 働 事 業	10
	〔5〕 レ ク リ エ ー シ ョ ン	12
	〔6〕 安 全 ・ 安 心 の 確 保	13
	〔7〕 受 託 業 務	15
	Ⅱ. 管 理 施 設 の 概 要	16
	〔1〕 恩 賜 上 野 動 物 園	16
	〔2〕 多 摩 動 物 公 園	19
	〔3〕 葛 西 臨 海 水 族 園	22
	〔4〕 井 の 頭 自 然 文 化 園	25
第3	収 益 事 業	
	Ⅰ. 事 業 計 画	28
	〔1〕 事 業 の 概 要	28
	〔2〕 便 益 施 設 の 経 営	30
	〔3〕 そ の 他 の 事 業	32
第4	収 支 予 算 概 要	33
第5	協 会 の 機 構	34

第1 運 営 方 針

平成 31 年度は、5 月に改元、10 月に消費税増税が予定されているなど、社会的に大きな変化が生じる見込みである。また、9 月にはラグビーワールドカップが開幕し、2020 年にオリンピック・パラリンピック競技大会を控えて増加傾向のインバウンド需要は、一層高まることが想定される。一方、近年甚大な被害をもたらしている自然災害や、世界で頻発するテロ等の人為災害は、集客施設を運営する当協会にとって大きな脅威となっている。

昨年創立 70 周年を迎えた当協会は、創立時から受け継がれる「動物園及び水族園事業の発展振興」、「人と動物の共存への貢献」という使命や長年培ってきた技術・経験を土台としつつ、これらの変化にも柔軟に対応することで、我が国の動物園・水族館の先導役として、また、都立動物園・水族園の指定管理者としての責務を果たしていく。

具体的には、以下の 5 つの取り組みを積極的に展開していく。

第一に、野生生物本来の生態や魅力を引き出す「動物の飼育・展示」である。長年にわたり蓄積してきた豊富な飼育繁殖技術を発展させ、いきいきとした動物たちの姿を見せる魅力的な展示を実現するとともに、国内外の動物園・水族館とのネットワークを一層強化し、展示動物の交流や共同事業を推進していく。

第二に、昨年策定された「第 2 次ブーストック計画」の対象種など希少種を中心とした「野生生物の保全」である。4 園が役割分担を行い計画的に生息域外・域内保全活動を推進するとともに、野生生物保全センターを拠点として、大学・研究機関等と連携した希少種の調査研究を推進していく。また、協会内に設置した基金について、事業規模の拡充等を図り、野生生物の保全活動に一層貢献していく。

第三に、多様なプログラムや情報発信を通じて動物や環境についての学びを提供する「教育普及」である。今年度新たに設置する教育普及センターを中心に、4 園が連携し、多様な教育プログラムの展開や、学校教育との連携を通じた社会教育施設としての活動を推進する。また、多様な媒体を活用し、動物園・水族園の魅力、野生生物の生態や生息環境について広く発信するとともに、東京動物園友の会の運営や、動物園サポーター及びボランティア等との協働事業を推進することで、動物園・水族園事業への参画意識を醸成する。

第四に、魅力的な商品やホスピタリティあふれるサービスを提供する「レクリエーション」である。より多くの方々に楽しんでいただけるよう、多様な来園者のニーズを的確に把握し、イベントやキャンペーンなど、満足度向上のための各種サービスを展開するとともに、季節や展示等と連動した商品開発、接客や品質管理が行き届いたショップ運営を通じて、新たな動物園・水族園ファンの獲得を図っていく。

第五に、万全な施設管理や危機管理対策に裏打ちされた「安全・安心の確保」である。動物舎、園内の施設や設備、樹木等の管理を的確に行うとともに、植物管理、バリアフリー等への積極的な対応により質の高いサービスを提供する。また、自然災害や人為災害等を想定した訓練や研修等を通じて、有事への対応力の向上や日常業務における事故の未然防止の徹底を図る。さらに、情報セキュリティに関する幅広い研修等を通じて、万全な個人情報保護や円滑な事業運営を確保していく。

各事業における今年度の主な取り組み事項について、次頁以降に記載する。

第2 公益目的事業

都立動物園・水族園4園（恩賜上野動物園・多摩動物公園・葛西臨海水族園・井の頭自然文化園）の指定管理者として管理運営を行うとともに、収益事業からの繰入金等も一体的に活用して、特色ある教育普及活動と市民・団体との協働による事業を実施する。

I. 事業計画

〔 1 〕 飼育・展示事業

展示動物を適切に飼育管理し、動物の特性を引き出す展示の工夫を行うことにより、園者の野生生物への興味や関心を引き出し、都立動物園マスタープランの実現を目指す。

業務区分	内 容
1. 展示動物の収集・管理	<p>今後の施設再整備に向けた取り組みや魅力的な展示を実現するため、平成30年度に東京都と協力して策定した第2次ズーストック計画及び、改訂に向けて取り組んでいる中長期計画である都立動物園マスタープランの進捗状況を踏まえ、展示・収集計画策定に向けた取り組みを進める。国内外の関係機関との連携を一層強化しながら、血統の登録管理や動物園間の動物の交換、貸借の調整、飼料の調達等を行い、適切な動物の収集や管理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 展示計画の策定(2) 動物の収集、移動・交換・貸借<ul style="list-style-type: none">・動物収集連絡会議の開催による都との連携・ブリーディングローン等による希少種保全・国内外の関係機関と連携した動物収集(3) 動物管理<ul style="list-style-type: none">・動物台帳管理・動物個体管理システムによる個体情報管理・国際種情報システム機構（Species360）による血統管理、登録事務(4) 動物飼料に関する事務

業務区分	内 容
2. 飼育展示・調査研究	<p>動物の健康と飼育環境管理を適切に行い、展示動物の魅力や特性を引き出すための改善や工夫を推進する。また、飼育動物の繁殖に努めるとともに、飼育展示を通じて得られた野生生物に関する研究成果等について、研究会や出版物、ホームページ等で積極的に発信する。</p> <p>(1) 飼育・展示業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物の健康及び飼育環境管理 ・飼育動物の繁殖 ・飼育技術の継承と向上 ・展示改善 ・飼育記録作成及び飼育情報提供 ・動物脱出等の事故防止 <p>(2) 調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学や研究機関との共同研究 ・国内外の会議への参加 ・研究会やホームページ等での研究成果の発表
3. 動物医療業務	<p>飼育職員と連携し、病気予防策、異常の早期発見に努め、適切な治療を行うとともに、検疫や感染症対策等の関連業務を行う。</p> <p>(1) 日常診療、予防業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼育と連携した病気等の予防及び異常の早期発見 ・動物の診療、治療 ・感染症対策等の安全確保 <p>(2) 検疫業務、病理解剖、検体保存</p> <p>(3) 獣医技術に関する調査研究</p> <p>(4) 医療器材・器具及び医薬品管理</p> <p>(5) 人工繁殖・人工保育に関する業務</p>

〔2〕 野生生物保全事業

野生生物保全センターを中心に4園が連携し、絶滅の危惧があり、重点的に保全する必要のある種及び動物群（保全対象種）や、昨年度新たに選定された「第2次ズーストック計画対象種」について、繁殖に取り組む。また、昨年度国が制定した「認定希少種保全動物園等」制度の認定を受け、環境省の進める保護増殖事業への協力を一層強化するほか、野生生物生息域内外の保全活動、調査・研究及び情報収集・発信等を推進する。

業務区分	内 容
1. 生息域外保全活動	<p>保全の対象とする野生生物本来の生息域外にあたる動物園内において、繁殖や個体群の維持、希少種の生理生態等を解明するための調査・研究を行う。</p> <p>(1) ジャイアントパンダほか保全対象種の繁殖と個体群の維持及び普及啓発</p> <p>(2) 環境省の進める保全への取り組みや保護増殖事業へ協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小笠原の希少種保全業務 多摩動物公園で累代繁殖に成功したオガサワラシジミや、4園で飼育繁殖に取り組む小笠原陸産貝類（アナカタマイマイ・カタマイマイ）の生息域外保全 ・ライチョウの域外保全に向けた取り組み ・恩賜上野動物園におけるルリカケスの生息域外での飼育繁殖の試み ・多摩動物公園におけるトキの分散飼育 ・井の頭自然文化園におけるツシマヤマネコの分散飼育 <p>(3) 自治体連携によるコウノトリ保全事業への協力</p>
2. 生息域内保全活動	<p>これまで培った保全に関わる技術を生かし、関係機関と連携した生息域内保全の取り組みを進めるとともに、東京都に生息する身近な生き物や希少種の保全に取り組む。</p> <p>(1) アカガシラカラスバトやルリカケス、コウノトリ、トビハゼ等、国内外の団体等と連携し、生息地での保全活動に協力</p> <p>(2) 都内に残されたイモリ生息地調査</p> <p>(3) 都内に生息するメダカのDNA解析に基づく生息調査</p>
3. 調査研究・生物学技術の応用	<p>希少種保全に向け、繁殖や系統解析に関わるバイオテクノロジーの先進技術の導入や人材の育成に取り組む。</p> <p>(1) DNA解析システム等を用いた調査研究の実施</p> <p>(2) 遺伝的解析による種・亜種の同定</p>

業務区分	内 容
	(3) 配偶子や体細胞の冷凍保存技術の活用 (4) 糞及び尿中の性ホルモン濃度測定による妊娠判定や発情周期の解明等
4. 情報収集・発信	国内外の会議等へ積極的に参加し、野生生物保全に関する情報の収集・発信に努め、また内外の動物園関係者、研究者との意見交換を行う。 (1) 各種国際会議への参加やシンポジウム等の開催 (2) 日本動物園水族館協会 (JAZA)、世界動物園水族館協会 (WAZA)、保全計画専門家グループ (CPSG)、東南アジア動物園水族館協会 (SEAZA) 等との連携 (3) ホームページや出版物等による情報発信

〔3〕 教育普及事業

新たに総務部に「教育普及センター」を設置し、都立動物園・水族園全体の教育普及事業方針を策定するとともに、現在各園で実施している教育普及事業の評価検証及び改善のプロセス策定の取り組みを開始する。また、教育普及センターを中心に、4園の連携を一層強化し、動物園・水族園の役割の一つである社会教育機能を充実させ、大人から子どもまで幅広い来園者を対象に、様々な観点から学べる多彩なプログラムを開発・実施する。

業務区分	内 容
1. 4園連携による幅広い教育普及活動の展開	<p>4園の独自性を活かしつつ、教育普及センターを中心に、緊密な連携体制を築き、社会教育施設としての役割を的確に果たすため、充実した教育普及活動を展開する。＜新規＞</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 教育機関との連携体制の充実、強化 (2) 生物保全や生物多様性をテーマにした関連情報の発信、講演会、企画展等 (3) ドリームナイト・アット・ザ・ズー&アクアリウム（障がいをもつ子ども達とその家族を対象とした教育普及活動）等、幅広い来園者を対象とした教育普及活動の実施
2. 園内プログラム	<p>専門の動物解説員による園内ガイドツアー、動物に関する質問・相談への対応、飼育担当者による動物解説や飼育動物とのふれあい、特設展・企画展の開催等により、動物やその生息環境の情報を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 動物解説業務 <ul style="list-style-type: none"> ・園内ガイドツアー、団体指導 ・クイズラリー等各種特別企画 ・ニュースレターの発行 ・ブックレットの作成 ・教材の開発と貸出、ワークシートを活用した動物観察指導 ・動物解説パネルの充実 (2) 動物相談室の運営 <ul style="list-style-type: none"> ・動物相談室の専門スタッフが一般からの質問に対応（上野、多摩） (3) 通年プログラムの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・フィーディングタイム、キーパーズトーク ・ふれあいコーナー ・スポットガイド (4) 企画プログラムの実施

業務区分	内 容
	<ul style="list-style-type: none"> ・開園記念日、飼育の日等催し物 ・動物愛護週間行事 ・園内観察会 ・映画、ビデオ上映等 <p>(5) 特設展・企画展 各園でテーマを掲げ、写真やパネル、教材等を使って展示</p>
<p>3. 体験プログラム・フィールドプログラム</p>	<p>自然科学への探求心、動物園や野生生物に関する知識を深めるとともに、環境保全意識の向上を図ることを目的として様々なプログラムを実施する。</p> <p>(1) 体験プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サマースクール ・その他、体験型プログラム <p>(2) フィールドプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野外フィールドにおける各種観察会 ・園内の自然を活用した観察会等の展開 <p>(3) 講演会・上映会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼育スタッフや専門家による講演会、上映会 ・他団体との共催講演会
<p>4. 学校教育との連携</p>	<p>学校教育との連携を深め、教員を対象とした実践的な研修会や生徒・学生等を対象とした有意義なプログラム等を実施する。</p> <p>(1) 教員研修、学校教員セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会、講座、実習、ワークショップ <p>(2) 生徒・学生を対象としたプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出張授業、講師派遣 ・教師を目指す学生のための講座「東京教師養成塾」への協力 ・小学校教諭採用予定者のための養成講座への協力 ・中学生、高校生等の職場訪問、職場体験の受入れ及び指導 ・大学生等の実習生の受入れ及び指導 ・インターンシップ <p>(3) 教材貸出、教育プログラムの開発</p> <p>(4) 園内における大学教育の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各大学との連携協定に基づいた講義、実習プログラムを実施
<p>5. 移動水族館</p>	<p>普段、水族園に足を運ぶことができない人にも、海の生物に親しむ機会を提供し、海と海洋生物への興味、理解を深めてもらうため、移動水族館専用車を活用し、水族園外においても普及啓発</p>

業務区分	内 容
	<p>活動を実施する。</p> <p>(1) 大型水槽車両による海洋生物の展示解説プログラム</p> <p>(2) 磯の生物とのふれあいと解説プログラム</p>
6. 会 員 組 織 運 営	<p>動物園・水族園の魅力を知る機会を提供するとともに、野生生物への理解を深めるため、「東京動物園友の会」（一般会員約3,300名、ジュニア会員約300名）の運営を行う。</p> <p>(1) 友の会機関誌、冊子の送付</p> <p>(2) 会員対象の催し物実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友の会の日、観察会、見学会 <p>(3) 案内パンフレット作成、配布等入会促進活動</p>
7. 資料の収集・公開	<p>野生生物及び動物園等に関する内外の専門書・学術雑誌等の文献や視聴覚資料を収集公開する。</p> <p>(1) 定期刊行物、関係図書、視聴覚資料の収集</p> <p>(2) 恩賜上野動物園資料室での資料閲覧</p> <p>(3) インターネットによる図書検索システムの運用</p> <p>(4) オリジナルビデオ作品の公開</p> <p>(5) 各園の記録文書や各種資料を保存し活用するためのアーカイブ構築への取り組み</p>
8. 出 版 業 務	<p>野生生物及び動物園等に関する情報を提供するために、機関誌や情報誌を作成し、配布する。</p> <p>(1) 「どうぶつと動物園」の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季刊、友の会会員向け ・優れた記事及び写真に対して「高碕賞」を授与 <p>(2) 「ZOO! どーぶつえんしんぶん」の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回、ジュニア会員向け <p>(3) 「みんなの上野動物園」（上野）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年5回、園内等一般配布 ・民間企業との協働による出版
9. 電子メディアによる情報発信業務	<p>都立動物園・水族園の公式ホームページ等を通じて最新情報を発信するとともに、案内情報等を提供する。</p> <p>(1) ホームページ「東京ズーネット」の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュース&催し物案内、動物図鑑、鳴き声図鑑 ・おすすめコース、学校向けプログラム ・友の会、動物園サポーター関連情報 ・蔵書検索

業務区分	内 容
	<p>(2) 「UENO-PANDA.JP」の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上野動物園のジャイアントパンダ情報サイト ・パンダに関するQ&A、パンダムービー、ジャイアントパンダ保護サポート基金の紹介、募金（パートナーズプレート）受付 <p>(3) 「UenoPandaLive.jp」の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上野動物園ジャイアントパンダ舎のライブ映像の配信 <p>(4) SNS等を活用した動物園最新情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Twitter（ツイッター）を利用した4園及び東京ズーネットアカウントによる最新情報発信
10. 映像記録資料制作	<p>飼育動物の行動や各種動物情報、園内外の行事・催し物を写真やビデオに撮影記録し、保存活用する。</p> <p>(1) 写真・ビデオ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来園者向けニュース、各種研究発表、HP掲載素材 ・広報発表時の提供資料 <p>(2) 映像資料等のデジタル化とデータベース化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期保存と有効活用のため、写真や映像等のデジタル化とデータベース化を実施

〔4〕 市民・団体との協働事業

市民との連携を通じた教育普及活動や来園者案内、市民による資金的支援を通じた飼育環境の改善と動物園支援者の育成、国内外の動物園関係団体への協力と支援、および基金制度による保全活動支援事業を実施する。

業務区分	内 容
1. ボランティアとの協働	<p>園内においてボランティア活動を行っている団体との協働事業を行う。</p> <p>(1) 「東京動物園ボランティアーズ」(TZV)・「東京シーライフボランティアーズ」(TSV) との協働事業と活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポットガイド等展示動物の解説や来園者案内 ・ ボランティア研修会の開催 ・ ニュースレター発行等の活動経費助成 <p>(2) 植栽、樹林地管理に関するボランティア、NPOとの協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上野動物園内の植栽、多摩動物公園内の樹林地管理活動
2. サポーター事業	<p>「動物園サポーター」として登録した個人及び団体、法人等から資金的支援を得て、園内動物飼育環境の改善に資するとともに、市民の動物園事業への理解と参画意識を促進する。</p> <p>(1) サポーター制度に関する事務、登録者管理</p> <p>(2) サポーター資金による施設改善</p> <p>(3) サポーターを対象とした園内見学等の催し物（サポーターズデイ）の実施</p>
3. 関係団体との協力	<p>国内外の関係団体と連携し、協力・支援・出展等を行う。</p> <p>(1) 国際自然保護連合（IUCN）への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IUCNの委員会の一つである種保存委員会（SSC）における保全計画専門家グループ（CPSG）への活動支援 <p>(2) 関係団体への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (公社)日本動物園水族館協会、WWF ジャパン、(公財)日本鳥類保護連盟、(公財)山階鳥類研究所ほかに加入 ・ 環境省他計11団体による「動物愛護週間中央行事」に協賛 <p>(3) 国際会議への出展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都立動物園・水族園の取り組みをPRするため、9月に京都で開催されるICOM（国際博物館会議）京都大会2019に出展

業務区分	内 容
4. 基金事業	<p>都民をはじめ多くの人々に、野生生物の保護やその生息環境保全についての理解を促し、集まった募金を基に野生生物の保全や保全活動を支援する事業を行う。</p> <p>(1) ジャイアントパンダ保護サポート基金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンダ保護に向けた普及啓発、飼育環境の向上、東京都と中国が協力して行うジャイアントパンダ保護繁殖事業の支援等 <p>(2) 東京動物園協会野生生物保全基金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度に拡充した助成制度に基づき、野生生物の保全に積極的に取り組む個人や団体への支援を通じて保全活動に貢献 ・助成対象者による活動報告会の開催

〔5〕 レクリエーション

来園した方々に快適に楽しんでいただけるよう、ホスピタリティあふれる案内・接客サービスを提供するとともに、利用者満足度調査等により来園者ニーズの把握に努め、キャッシュレスや多言語対応等の取り組みを展開する。

また、季節に合わせたイベント展開や、様々な媒体を活用した効果的な広告宣伝により、利用促進に努めていく。

なお、園内のギフトショップやレストランにおけるサービス提供については、「第3 収益事業」の項（28ページ以降）に記載する。

内 容
<p>来園者に快適な観覧環境を提供するため、入園券の売改札、案内所等での利用案内等を行うとともに、利用促進に向けた様々な活動を展開する。</p> <p>(1) 売改札及び利用案内・園内サービス</p> <ul style="list-style-type: none">・入園券の売改札、年間パスポートの販売・園内における占用等各種申請受付と料金徴収・入場料徴収時におけるキャッシュレスの導入<新規>・園内利用案内、迷子相談、救急救援、園内放送・来園者にわかりやすい案内図やサイン等の作成・外国人来園者対応のため、英会話及び接客研修等の実施・外国語対応の案内サイン等の整備促進・外国人来園者向けツアーリストインフォメーションの設置（上野）<新規>・広告事業による園内環境の整備（上野）・苦情・要望・意見への対応、取材対応 <p>(2) 利用促進・PR活動</p> <ul style="list-style-type: none">・ホームページやSNS等による利用案内、情報発信・「Visit Zoo」等の集客キャンペーンの実施及び効果的な広告宣伝の展開・学校、旅行代理店等へのダイレクトメール送付・繁忙期における休園日の開園と開園時間の延長、夜間延長プログラムの充実・各種マーケティング調査・苦情・要望データベースや利用者満足度調査を活用した利用満足度の向上

〔6〕 安全・安心の確保

動物舎等の施設、設備の適切な維持管理に加えて、植物管理、バリアフリー対策等、積極的に質の高いサービスを提供する。

また、関係機関と連携した訓練の実施やマニュアルの不断の見直し等を通じて、地震等の自然災害やテロ等の人為災害への対応力の向上や日常業務における事故の未然防止の徹底を図る。さらに、職員への継続的な研修・訓練や情報システムのリスク評価などの情報セキュリティ対策を実施する。

これらの取組を通じて集客施設として事業運営の土台となるお客様の安全・安心の確保を図っていく。

内 容
1. 施設の管理
（1）園内施設・設備の維持管理
・ 動物舎、園路広場等の各種施設の維持管理
・ 樹木、株物、地被植物、樹林地等の維持管理
・ 電気、空調、昇降機、水処理設備等、各種設備の保守、維持補修
・ バリアフリーや省エネルギー対策への取り組み
（2）園内の保安及び環境美化
・ 巡回警備による入園者の整理・誘導
・ 来園者に対する利用案内
・ 園内清掃及び廃棄物処理
2. 震災等の災害対策
・ 事業継続計画（BCP）に基づいた教育及び訓練（初動対応、事業継続、参集、通信訓練及び応急救命講習の受講等）とマニュアルの更新
・ 台風・大雨・積雪等災害時における対応、巡回点検
・ 自衛消防訓練、災害対応備品の充足
3. テロ対策（凶器・爆発物等）
・ 関係機関等と連携したテロを想定した訓練の実施
・ 訓練を踏まえたマニュアルの更新
4. 事故対策
・ 猛獣脱出対策訓練の実施、マニュアルの更新
・ 事故事例の調査・分析、対策の実施
・ 事故防止に向けた研修の実施
5. 感染症対策（高病原性鳥インフルエンザ・口蹄疫・蚊媒介感染症等）
・ 情報収集
・ 対策指針、対応マニュアルに沿った感染・拡大の防止

内 容

6. 情報セキュリティ対策

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・職員への情報セキュリティ研修やメール訓練等の実施・情報処理システムのリスク評価、事故発生時のシミュレーションの実施 |
|---|

〔7〕 受託業務

協会の保有する人材やノウハウを活用し、東京都や他団体からの業務を受託する。

内 容
1. 恩賜上野動物園ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトに関わる業務受託 東京都からの受託による、都と中国野生生物保護協会の間で締結された協力協定書に基づく研究プロジェクト業務
2. 特別天然記念物トキの健康管理及び飼育指導に係る業務受託 新潟県からの受託による、佐渡市のトキ保護センター、野生復帰ステーションにおけるトキの定期検診及び飼育指導業務
3. 大島公園動物園動物飼育管理業務受託 東京都からの受託による、都立大島公園動物園の動物飼育業務。大島へ6名の職員を派遣し、ワオキツネザルやレッサーパンダなど約70種500点の動物について、獣医業務以外の飼育展示業務全般を担うほか、ふれあい等のイベントを実施。

Ⅱ. 管理施設の概要

〔1〕恩賜上野動物園

(運営方針及び主な事業計画等)

所在地	台東区上野公園、池之端三丁目
開園面積	142,897.89m ²
運営方針	様々な動物の魅力的な展示を通して、野生生物保全の重要性を国内外に発信する動物園
主な事業計画	<p>【動物の飼育・展示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ジャイアントパンダ及びニシゴリラ等希少種の繁殖子の健康管理の取り組み ○ジャイアントパンダの次期繁殖への取り組み ○ホッキョクグマ・スマトラトラ等の繁殖に向けた取り組み ○整備工事による動物展示等への影響の最小限化 <p>【野生生物の保全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ニホンライチョウ保護増殖事業への継続的な協力 ○アカガシラカラスバトの域外保全の取り組み ○ルリカケス・カタマイマイ等の域外保全の取り組み ○アイアイの保全等、生物多様性保全に関する国際的な取り組みへの持続的貢献 <p>【教育普及】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「子ども動物園すてっぷ」における対象年齢別の教育普及活動を充実 ○上野ミュージアムウィーク等における近隣施設との連携の強化 ○ニホンライチョウの公開に伴う教育普及活動の推進 <p>【レクリエーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新東園無料休憩所における飲食提供サービスの円滑な運営と充実 ○外国人来園者向けツアーリストインフォメーションの設置<新規> ○都立公園ガイドサービスアプリ「Tokyo Parks Navi」の普及促進 <p>【安全・安心の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○パンダ人気の状況や正門整備工事の進行に合わせた来園者のスムーズな案内誘導 ○バリアフリー（移動・情報・言語等）の推進 ○猛獣脱出対策訓練及び地域と連携した災害対策訓練の実施

(主な展示及び施設)

エリア名	施設名	概要 (主な展示動物)
1. 東園	パンダ舎	ガラス越しにジャイアントパンダを観察できる3つの屋外展示場と4つの室内展示場のほか、非公開の屋外放飼場、産室等から成る。 平成23年に中国から来園した「リーリー」「シンシン」との間に、平成29年に「シャンシャン」が誕生し、人気を博す。展示場に設置されたカメラにより、インターネットを通じリアルタイムにジャイアントパンダの動画を配信している。
	日本の動物	五重塔付近に鳥類を中心に日本産の動物を展示する。ライチョウの保全の取り組みの一環として平成31年3月から展示を開始。 (エゾシカ、ウグイス、ルリカケス、ライチョウほか)
	ゾウ舎	インド、タイから寄贈されたアジアゾウ4頭を飼育展示し、繁殖を目指す。 平成25年に放飼場に設置されたプロテクテッドコンタクトウォールを活用し、準間接飼育に向けた取り組みを進めていく。
	サル山	昭和7年に建築、公開され、日本の動物園の「サル山」の原点となった。平成22年1月より世界最北に分布する青森県・下北半島のニホンザルの群れを展示する。
	ゴリラ・トラの住む森	それぞれの生息地に合わせ植栽や擬岩、擬木を施した環境でゴリラの生態にあわせた群れ飼育やトラ等を飼育展示する。 (ニシゴリラ、スマトラトラ、インドライオン、アメリカバクほか)
	バードハウス	室内型の鳥類飼育施設。熱帯及び温帯産の鳥類を飼育し、植栽を多く取り入れ樹上性、地上性の鳥類を複合展示するほか、コアリクイの展示も行う。 (マダガスカルトキ、ヒノマルチョウ、ボウシゲラほか)
	クマたちの丘	平成17年度に改築。寒帯、温帯、熱帯ゾーンからなる。冬眠するニホンツキノワグマを観察できる冬眠ブースを設置している。 (エゾヒグマ、マレーグマ、コツメカワウソほか)
	ホッキョクグマとアザラシの海	ホッキョクグマ及びアシカ・アザラシを水中からも観察できる展示を行う。 (ホッキョクグマ、カリフォルニアアシカ、ゼニガタアザラシ、スバルバルライチョウ)
2. 西園	アイアイのすむ森	マダガスカルを原産とする代表的な動物を展示する。アイアイは日本唯一の展示場所であり、昼夜逆転した屋内展示場では夜行性のアイアイをガラス越しに観察することができる。 (アイアイ、ワオキツネザル、フォッサほか)
	カバ舎・サイ舎・キリン舎	アフリカの沼地、草原、森林に生息する草食動物を飼育展示する。カバ舎ではコビトカバのガラス越しの水中行動展示を行う。 (カバ、コビトカバ、クロサイ、キリン、オカビほか)
	小獣館	1階に小型の哺乳類、地階に夜行性の哺乳類を展示する。 (ハリモグラ、コモンマーモセット、ハダカデバネズミ、アルマジロ、コウモリ類ほか)
	走禽舎	3つの屋外展示場のほか、ガラス越しに室内動物舎を閲覧できる展示場を有し、オオカンガルーとタテガミオオカミを展示する。平成29年度に新ジャイアントパンダ舎整備工事により、昭和55年完成当初の約半分の規模となった。

エリア名	施設名	概要（主な展示動物）
	フラミンゴ舎	平成18年に寄付金とサポーター資金を活用して建築し、フラミンゴの飼育繁殖に取り組む。緑豊かな放飼場で約40羽のフラミンゴの群れを展示し、池内で採食する様子などを間近に観察することができる。 (ベニイロフラミンゴ)
	ハシビロコウ舎	ハシビロコウ専用の展示施設として、平成24年には新規の付属展示場が完成し、平成25年には動物舎の天井を高く改修した。国内初の繁殖を目指す。
	ペンギン池	昭和54年に建設。巣穴を有する陸地とプールから成り、ペンギンの飼育下繁殖に取り組む。約30羽の群れを展示し、泳ぐ姿などを間近に観察できる。 (ケーブペンギン)
	繁殖センター	平成25年に完成。旧ズーストック舎に代わる非公開の保護施設。 鳥類の人工孵化・育雛施設を合わせ持ち、希少種の保護・増殖を行う。 (アカガシラカラスバトほか)
	両生爬虫類館 (ビバリウム)	国内外の両生類・爬虫類を中心に飼育展示するとともにバックヤードでもストックされた希少種の繁殖に取り組む。また、様々なテーマに基づいた特設展示を実施している。 (オオサンショウウオ、イリエワニ、ガラパゴスゾウガメ、ヤドクガエル類、グリーンイグアナほか)
	子ども動物園すてっぷ	平成29年に完成。子どもたちが、身近な生き物や自然へと関心を広げ、生物多様性について学習する場として不忍池の生物、家畜（遺伝資源の多様性）、野生生物（種の多様性）を展示し、様々な教育普及活動を展開する。 (ウマ、ブタ、カピバラ、テンジクネズミ、ウサギ、エミュー、インカアジサシ、魚類、昆虫類ほか)

〔2〕多摩動物公園

(運営方針及び主な事業計画等)

所在地	日野市程久保六丁目、七丁目、南平八丁目
開園面積	601,372.54㎡（うち無料開園区域77,508.22㎡）
運営方針	多摩丘陵の自然を活用し、ダイナミックな展示と野生生物の保全・繁殖を推進する動物園
主な事業計画	<p>【動物の飼育・展示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゾウへの防護壁を用いた準間接飼育技術の確立等、事故防止に重点を置いた大型動物の飼育管理技術の向上 ○キリン、アムールトラ、コアラ、ゴールデンターキン、ユキヒョウ、インドサイ、チーター、チンパンジー、レッサーパンダ、サーバル等、希少種の繁殖の推進 ○タスマニアデビル保全プログラムにおける関係機関との連携 ○新アジアゾウ舎の動物舎整備工事に伴う動物の輸送トレーニングの実施 ○ゲンジボタル地域個体群の園内定着のための取り組みの継続実施 <p>【野生生物の保全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○トキの野生復帰に貢献する繁殖の継続と一般公開に向けた展示手法等の検討 ○コウノトリの域外保全の強化と域内保全への貢献 ○オガサワラシジミ・カタマイマイ等小笠原産固有種の域外保全の推進 <p>【教育普及】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○園内の自然を活用したプログラムの実践や情報発信の強化 <p>【レクリエーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○京王れーるランド、京王あそびの森HUGHUGと連携した「キッズパーク たまどうイベント」の実施 <p>【安全・安心の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特定動物やライオン園、サバンナ等の整備工事に伴う臨時飼育舎を含む動物舎の安全性確保と脱出防止のための日常点検の強化 ○植物による動物生息地の雰囲気演出の取り組み

(主な展示及び施設)

エリア名	施設名	概要 (主な展示動物)
1. アフリカ園	サバンナ放飼場	広い放飼場でアフリカの草原に生息する草食獣、大型鳥類を複合展示する。 ※施設再整備によりキリン、モモイロペリカン以外は、アジア園内施設に分散して飼育管理中。
	ライオン園	世界に先駆けて約1.5ヘクタールの放飼場にライオンを群れで展示する。 ※施設再整備に伴い、平成30年度から放飼場の一部に設置した仮設展示場でライオンを展示し、観覧専用バスの運行を休止。
	チーター舎	およそ1,800m ² の大放飼場やガラス越しに間近に観察できるガラス放飼場でチーターや体の模様が変異したキングチーターを展示し繁殖に取り組む。
	サーバル舎	小型のネコ科動物サーバルを展示し、繁殖に取り組む。
	アフリカゾウ舎	第一、第二の2つの放飼場では水浴や泥浴びする姿や丸太の遊具を鼻で揺するダイナミックな様子を展示する。さらに、第一放飼場では強化ガラス製の小窓越しに間近に観察ができる展示も行う。 平成24年にはブリーディングローンで新たなオス個体を導入、将来の繁殖を目指す。
	チンパンジー舎	大放飼場内にロープ等の様々な遊具や築山、高木を設け、チンパンジーの動きを立体的に展示している。また、人工アリ塚やチンパンジー用の自販機・空缶回収機を設置し、類人猿の知能の高さ、道具使用も展示のテーマとする。
	フラミンゴ舎	およそ180羽のフラミンゴや水鳥の仲間を群れで展示している。 (ヨーロッパフラミンゴ、アカハシコガモほか)
2. アジア園	オランウータン舎	運動場と「飛び地」が、9本のタワーと全長約150mのロープでつながった「スカイウォーク」を設置し、腕わたりしながらオランウータンが移動する行動を展示する。 (ボルネオオランウータン、シロテテナガザル)
	猛獣舎	モート、あるいはガラス越しに観察できる展示場で、アムールトラを飼育展示している。
	アジアの山岳	生息地を模した展示場でアジアの希少種であるユキヒョウやゴールデンターキン、シセンレッサーパンダを展示しながら繁殖に取り組む。
	シフゾウ舎	野生では絶滅した中国産偶蹄類のシフゾウを飼育展示する。
	アジアの沼地	アジアの水辺に生息する動物を本来の環境に近い形で展示することをテーマとして、希少種のマレーバク、インドサイやカワウソのほかウオークイン・バードケージにおいて鳥類の飼育展示を行う。
	モグラのいえ	長期飼育の難しいモグラ類や、世界最小の哺乳類といわれるトガリネズミ類、カワネズミの展示を行い、生理生態の解明や繁殖に取り組む。
	アジアの平原	タイリクオオカミやモウコノウマ等、アジアに生息する希少種の群れで行動する自然な姿を展示し、飼育下繁殖に取り組む。
	アジアゾウ舎	2頭のスリランカゾウを飼育する。 放飼場のプロテクテッドコンタクトウォールを用いて準間接飼育に向けた取り組みを進めていく。 平成29年にオス個体アヌーラを新獣舎へ移動。
	猛禽舎	大型の猛禽類のためのフライングケージで、オジロワシやイヌワシが飛翔する姿を見ることができる。

エリア名	施設名	概要（主な展示動物）
	どんぐり広場・なかよし広場	イベントやふれあいの場としての利用等、体験学習・環境学習に活用する。
3. オーストラリア園	コアラ館	コアラとオーストラリア産の小動物を飼育展示し、室温・照明等はコンピューターによって制御されている。
	有袋類展示	アカカンガルー、走鳥類のエミュー等オーストラリア産動物を併せて展示する。 平成28年よりタスマニアデビルを導入。
4. 昆虫園	昆虫園本館	国内外昆虫類の生態展示のほか、標本・模型の展示やふれあいコーナーを設けており、昆虫を楽しみながら学べる施設となっている。 (グローワーム、ハキリアリ、外国産クワガタ、オオコノハムシ、ゲンゴロウほか)
	昆虫生態園	生きている昆虫を周年展示する。来園者が中を散策できる大温室では、林・草原等を再現し、年間を通じて計15,000匹以上のチョウを温室内に放している。 身近な昆虫や両生類、ホタルの展示も行い、ゲンジボタルの地域個体群系統保存にも取り組んでいる。 (オオゴマダラ、トノサマバッタほか)
5. その他	ウォッチングセンター・正門広場	標本等の館内展示のほか、園内案内ビデオや図書コーナー、動物相談コーナーがある。 館内にある動物ホールでは講演会等を開催する。
	育雛舎	野生生物保全センターの活動拠点として、トキやクロツラヘラサギ等の希少鳥類の人工増殖に取り組んでいる。
	繁殖ケージA	環境省が進めるトキの分散飼育に協力するため、佐渡トキ保護センターから個体を受け入れ、繁殖や研究に取り組む（非公開施設）。 ウォッチングセンターでライブカメラによる映像を公開している。

〔3〕葛西臨海水族園

(運営方針及び主な事業計画等)

所在地	江戸川区臨海町六丁目
開園面積	85,958.90㎡
運営方針	東京湾から世界の海にいたる多様性に富んだ生物展示を通して、「生態」、「環境」、「食育」を楽しく学べる水族園
主な事業計画	<p>【動物の飼育・展示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水族園の更新に向けた新規展示種の飼育、採集、輸送技術開発 ○マグロ大水槽の安定展示のための個体群管理手法の確立と新規展示種の導入 ○飼育に関わる脱窒等新技术の研究開発 ○鹿児島県、静岡県等の定置網漁による新規展示魚種開発の取り組み ○開園30周年 記念特設展の開催 ○ペンギン類の繁殖促進 ○極地展示の充実に向けた北極採集拠点の開発 <p>【野生生物の保全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域・他機関と連携したイモリやトビハゼ、ミナミメダカの調査、保全と普及啓発の実施 ○東京産両生類、ゼニタナゴ、ペンギン類、カタマイマイ保全への取り組み <p>【教育普及】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開園30周年記念イベントの展開 ○「食」をテーマにしたプログラムの継続と質の向上 ○移動水族館事業における新規訪問先の開拓 ○海洋性プラスチック問題への普及啓発活動 <p>【レクリエーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開園30周年に向けた魅力的な商品の提供 <p>【安全・安心の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○老朽化設備更新・安全対策への取り組み強化

(主な展示及び施設)

エリア名	展示名	概要 (主な展示動物)
1. 本館展示	大洋の航海者	外洋性の魚類を展示。2,200トンのドーナツ型大水槽では、主にマグロ類を、サメ水槽では、アカシユモクザメ等のサメ類のほか、マイワシの群泳を展示する。 (クロマグロ、アカシユモクザメほか)
	世界の海	太平洋、インド洋、大西洋及び両極洋の代表的な海域から生物を収集して展示しており、繁殖生態が解明されていないナーサリーフィッシュや希少種であるウィーディシードラゴン等の産卵・繁殖を目指す。 (ストロベリーアネモネ、チューブスナウト、メガネモチノウオ、イエローバンドエンゼルフィッシュ、ランプサッカーほか)
	深海の生物	水深150m～1,000mに棲む魚類及び無脊椎動物を展示する。また、サケビクニンの繁殖やマトウダイの周年展示を目指す。 (キンメダイ、スポッテッドラットフィッシュ、トリノアシ、ジャイアントアイソポッドほか)
	渚の生物	半屋外にあり、東京湾口部の岩礁帯を再現。波と潮の干満を再現した波打ち際にはタイドプールがあり、東京湾に生息する生物の生態や行動を展示する。 (ベラ類、カワハギ、ウメボシイソギンチャク等磯の無脊椎動物ほか)
	しおだまり	ウニやヒトデ等身近な磯の生物に触れたり、間近に観察できるしおだまり水槽がある。 日常的に飼育員や解説員等による解説を行っている。
	ペンギンの生態	波のプールと大きな擬岩からなる陸上の展示場を有した日本最大級のペンギン展示施設。 温帯・極地帯のペンギン類を飼育し、その多様性と生態や行動を紹介する。 ペンギン類の繁殖に取り組むほか、オウサマペンギン、ミナミイワトビペンギンについては冬季のみ展示。 (フンボルトペンギン、フェアリーペンギン、オウサマペンギン、ミナミイワトビペンギン)
	海藻の林	海藻の林と呼ばれる、大型褐藻類のジャイアントケルプを中心とした岩礁地帯を再現し、そこに生息する様々な生物を展示する。 (ジャイアントケルプ、ストライプトサーフパーチ、ブルーロックフィッシュ、ガリバルディほか無脊椎動物等)
	東京の海	亜熱帯性気候の小笠原諸島に始まり黒潮に洗われる伊豆七島を経て東京湾に至る、「東京の海」の生物を展示する。トビハゼ等東京湾奥の生物展示、タツノオトシゴの安定繁殖等に取り組む。 (ユウゼン、タカベ、テングダイ、アマモ、トビハゼほか)
	葛西の海	「東京の海」2階のキャットウォークに、葛西周辺の海に生息する生物を展示する。 (エドハゼ、バンケイガニ、アサリほか)
	海鳥の生態	北半球の寒帯・亜寒帯に分布するウミスズメ科の鳥類を飼育し、水中を羽ばたいて泳ぐ様子を展示する。 (エトピリカ、ウミガラス)
特設展示場	テーマを決めた特設展示を開催する。生き物の展示を織り交ぜ、展示効果を高めつつ、教育普及効果も高める。	

エリア名	展示名	概要（主な展示動物）
	発光生物	巻き貝による貝の摂餌実験やウミホタルの発光実験を公開している。平成29年よりヒカリキンメダイやウミホタル等の発光生物の展示や実験を行う。 （ヒカリキンメ、ウミサボテンほか）
	浮遊生物	平成28年にオープン。クラゲのポリプ、幼体、成体を展示する。またトピック的な浮遊生物の展示を行う。 （ミズクラゲ、アカクラゲほか）
	レクチャールーム	学校団体向けの特別レクチャーや各種講演会を行うほか、幼児から高校生までの幅広い教育プログラムやイベントを開催。さらに、夏と冬には、教員研修も実施する。
2. 屋外展示	水辺の自然	広い園地を利用して、河川上流部、中流部、平地の池を「溪流」「流れ」「池沼」として再現している。また、「流れ」の下流部を利用し、江戸時代に葛西の水辺に生息していたコウノトリ・タンチョウと、葛西付近でも稀に観察されるクロツラヘラサギを展示する。
3. 予備飼育 (繁殖センター)		展示を支えるため、搬入生物の検疫、餌付け、育成、治療、繁殖等を行うほか、希少種の繁殖に取り組む。

〔4〕井の頭自然文化園

(運営方針及び主な事業計画等)

所在地	武蔵野市御殿山一丁目、三鷹市井の頭四丁目
開園面積	115,500.00㎡
運営方針	いつでも気軽に楽しみ、充実したふれあい体験を通じ、野生生物を守る心を育む動物園
主な事業計画	<p>【動物の飼育・展示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○最新の科学的知見を踏まえ、飼料の種類・量・方法・栄養成分の再検討 ○動物福祉の観点から既存動物舎の現状を自己評価し、海外等の先進技術の導入による改善（環境エンリッチメントの実施） ○国内外の動物園等と連携した日本産水鳥類の飼育繁殖の推進 ○日本産希少淡水生物の安定した飼育繁殖技術の継承 <p>【野生生物の保全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日動水や環境省等との連携によりツシマヤマネコの人工繁殖技術の開発を継続 ○アカガシラカラスバト、小笠原産陸生貝類、東京産両生類等の保全活動において、都立動物園・水族園相互のネットワーク強化 ○地域と連携した両生類の保全活動の推進 ○身近な水辺の生物の保全をテーマとした講演会の実施 <p>【教育普及】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○園内の自然環境を把握し、それを活用した環境教育の推進 ○日本に生息する野生生物に関する企画展の開催 ○三鷹市や武蔵野市、様々な野生生物の保全に取り組む団体や地域の団体や企業と連携し、当園の取り組みの普及啓発を推進 ○彫刻園では、作品群の整理、魅力的な展示に取り組むとともに、積極的なPR及び活用を推進<新規> <p>【レクリエーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入園門では季節に応じたウェルカム展示を実施し、積極的な来園者誘致を展開 <p>【安全・安心の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○井の頭では初めてのテロ対策訓練を関係機関と連携し実施

(主な展示及び施設)

エリア名	施設名	概要 (主な展示動物)
1. 動物園	武蔵野ハビタット	本園の中央部にある大放飼場。武蔵野の面影を伝えるアカマツ林の中に、ヤクシカやクロヅル、タンチョウ等を放飼する。平成30年に放飼場の一部を囲い、イノシシの展示を開始。
	日本産動物展示エリア	カモシカやテン、アナグマ、ハクビシン、キツネやタヌキ等日本産の動物を多く飼育展示する。
	ヤマネコ舎	ツシマヤマネコとアムールヤマネコを飼育展示する。一部非公開エリアを設け、ツシマヤマネコの繁殖に取り組む。
	野鳥の森	日本の小鳥を集めている和鳥舎とヤマドリ舎からなる。日本固有の鳥であるヤマドリを飼育展示する。
	リスの小径	ウォークスルー形式の展示施設により、貯食行動等ニホンリスの様々な生態を間近に展示する。
	サル山	ニホンザルと近縁で、東アジアからインドに生息するアカゲザルを群れで展示する。
	仮設オオコウモリ舎	取り壊された熱帯鳥温室の動物達を収容するための仮設舎。新たにオオコウモリの飛翔展示に取り組む。
	ペンギン展示仮施設	平成26年より、フンボルトペンギンの泳ぐ姿を展示する。
	モルモットふれあいコーナー	モルモットとの触れ合いを通じながら、生き物の鼓動やぬくもりを感じることができる体感施設として、教育普及活動を行う。
	家畜舎	ヤギやミニブタ、ニワトリを飼育して家畜の多様性を展示する。
	いきもの広場	平成24年に身近な生き物との出会いを楽しむ場として整備。ビオトープの機能を再現し、広場に生息する野生動植物をテーマとして体験型の教育普及活動を行う。
	彫刻園	長崎の平和祈念像で知られる彫刻家・故北村西望の作品を、彫刻館及び園内の雑木林の中に展示する。彫刻館では、コンサート等の文化的イベントも開催する。
	童心居	詩人故野口雨情の書齋を移築し、昭和62年に改築したもの。有料の貸し室として使用する。
資料館	動物・植物に関するパネル展示や特設展、体験参加型イベントを実施する。 2階は有料の集会場であり、各種イベントにも活用する。	
2. 水生物園	水生物館	主に地元を中心とした関東地方の淡水生物を集め、川の上流から中流域、及び止水域における生息分布に応じた種を展示する。 また身近な環境保全をテーマとした企画展示も引き続き行う。 種ラベル、解説パネル類のシステム変更と整備を継続して行う。 (ミヤコタナゴ、ムサシトミヨ、トウキョウサンショウウオ、ツチガエル、ミズグモ、カイツブリほか)

エリア名	施設名	概 要（主な展示動物）
	水鳥類ほか	<p>各禽舎において日本産の水鳥類を飼育展示し、繁殖を進める。コールドック舎ではふれあい等の教育普及活動を行う。平成29年よりクロツラヘラサギとニホンコウノトリ、平成30年よりミゾゴイの展示を開始。鳥インフルエンザ対策工事を実施し、引き続き飼育環境の衛生管理に努める</p> <p>身近な水辺の生物の観察を体験できるエリアとして、平成28年に「水辺のいきもの広場」をオープン。体験型の教育普及活動を充実させていく。</p> <p>（オシドリ、カリガネ、タンチョウほか）</p>

第3 収 益 事 業

恩賜上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園、井の頭自然文化園においてギフトや飲食品販売等の事業を実施する。事業運営によって得られた収益は、公益目的事業会計に繰り入れ、事業等を通じて都民に還元する。

I. 事 業 計 画

〔1〕 事 業 の 概 要

○ギフトショップの運営

動物園水族園での楽しい思い出を持ち帰っていただけるような、展示動物に関連するオリジナル商品を中心に販売している。

○レストラン・フードショップの運営

安全・安心を最優先に、動物園水族園ならではの季節やイベントに応じた美味しく、楽しいメニューを提供している。

○オリジナル商品の開発

ギフトショップでのオリジナル販売商品は、展示動物の飼育担当者と協力しながら、可愛らしさとリアリティの両立を目指し開発している。また、レストラン・フードショップにおいても、その動物園、水族園や動物に関連した思い出に残るようなメニューを提供している。

○その他のサービス

来園者サービスの一環として、コインロッカーでの荷物預かり、ベビーカーの貸出し、フォトサービスによる来園記念撮影。

事業区分	事業細目		
	園名	種別	箇所数
1. 便益施設等の経営	(1) 恩賜上野動物園	(1) 売店	3
		(2) 飲食店	2
		(3) 臨時売店	2
		(4) 自動販売機コーナー	12
		(5) フォトサービス	1
		(6) 写真（映像資料）貸出	1
		(7) ベビーカー貸出所	3
		(8) コインロッカー	2
	(2) 多摩動物公園	(1) 売店	4

		(2) 飲食店	1
		(3) 臨時売店	4
		(4) 自動販売機コーナー	13
		(5) フォトサービス	1
		(6) ベビーカー貸出所	1
		(7) コインロッカー	1
		(8) ライオンバス	1
	(3) 葛西臨海水族園	(1) 売店	2
		(2) 飲食店	1
		(3) 自動販売機コーナー	3
		(4) コインロッカー	2
	(4) 井の頭自然文化園	(1) 売店	2
		(2) 自動販売機コーナー	3
2. その他事業	恩賜上野動物園内広告事業（広告施設9箇所） 協賛金募集事業（ジャイアントパンダ保護サポート基金等）		

〔2〕 便益施設等の経営

平成31年度は、各園において園内整備に伴う施設工事が予定されている。収益事業としても、園内状況に応じた柔軟な店舗運営を実施するとともに、各店舗においては、夏の夜間開園や冬のVisitほっとZoo開催期間等、時季に合わせた商品、サービスを提供することにより、動物園・水族園の全体としての満足度向上に寄与する。また、消費税増税についても、来園者に分かりやすい対応を実施する。

- 恩賜上野動物園では、新しくオープンする東園無料休憩所において、多様な来園者に対応するメニューを提供するとともに、シャンシャン2歳誕生日を記念した商品を販売する。
- 多摩動物公園では、人気施設であるライオンバスの運行再開に向けた準備を整えるとともに、ギフト、フード店舗においても準備を整える。
- 葛西臨海水族園では、開園30周年記念イベントと連動したギフト・フード商品を販売する。
- 井の頭自然文化園では、オリジナルデザインのギフト商品を販売するとともに、イベントに合わせたメニューを提供する。

【施設名及び収入見込額】

※は改修工事のため閉鎖中の施設

園名	施設名	収入見込額
恩賜上野動物園	1. 1号売店（店名：リトルランク） 2. 2号売店（店名：カメレオン） 3. 東園中央広場売店（店名：バードソング） 4. 東食売店（猿山前）※ 5. 飲食店第1号（東園）※ （飲食店第1号のオープンに合わせて4を統合） 6. 飲食店第2号（西園） 7. 臨時売店 8. 自動販売機コーナー 9. ベビーカー貸出所 10. コインロッカー 11. フォトサービス 12. 写真（映像資料）貸出 13. その他	2,100百万円
多摩動物公園	1. 1号売店（コアラ館） 2. 2号売店（ライオン園） 3. 3号売店（店名：コレクション） 4. 4号売店（店名：ズーカフェ） 5. 飲食店（店名：サバンナキッチン） 6. 臨時売店 7. 自動販売機コーナー 8. ベビーカー貸出所 9. ライオンバス※ 10. コインロッカー 11. フォトサービス 12. その他	466百万円

葛西臨海水族園	1. 1号売店 (店名: アクアマリン) 2. 2号売店 (店名: アクアスケープ) 3. 飲食店 (店名: シーウインド) 4. 自動販売機コーナー 5. コインロッカー 6. その他	544百万円
井の頭自然文化園	1. 1号売店 (店名: はな子カフェ) 2. 2号売店 (店名: こもれび) 3. 自動販売機コーナー 4. その他	110百万円
合 計		3,220百万円

〔3〕 その他の事業

1. 恩賜上野動物園内広告事業

恩賜上野動物園内の広告掲示施設にスポンサーを募り、広告事業を行う。

収益は、園内の案内誘導サイン等の制作に充てる。

種 別	数 量	設 置 場 所	収入見込額
動物解説ボード	8基	ジャイアントパンダ、ニホンザル、サイ、ゾウ、ゴリラ、ワシ・タカ、キリン・オカピ、ハシビロコウ	4百万円
環境啓発ボード	1基	モノレール東園駅前	

2. ジャイアントパンダ保護サポート基金協賛金募集事業

(1) 広告掲示等により多数の企業から協賛金を募る、協賛金募集事業を行う。

(2) 協賛金募集事業で得られる協賛金については、必要経費を除いてジャイアントパンダ保護サポート基金に全額繰り入れる。

協 賛 金 種 別	協賛メディア	収入見込額
ジャイアントパンダ保護サポート基金	広告、ロゴマークライセンス等	10百万円

第4 収支予算概要

(単位：千円)

科目	公益目的 事業会計	収益事業 会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	2,420	—	3,800	6,220
特定資産運用益	10	—	—	10
受取会費	7,160	—	—	7,160
事業収益	59,130	3,267,913	—	3,327,043
受取寄付金	56,015	—	—	56,015
受取委託料(※注)	5,713,114	—	179,456	5,892,570
雑収益	5,377	5,584	30	10,991
経常収益計	5,843,226	3,273,497	183,286	9,300,009
(2) 経常費用				
事業費	5,930,306	3,060,413	—	8,990,719
管理費	—	—	278,812	278,812
経常費用計	5,930,306	3,060,413	278,812	9,269,531
当期経常増減額	△87,080	213,084	△95,526	30,478
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
他会計振替額	84,000	△176,840	92,840	0
税引前当期一般正味財産額	△3,080	36,244	△2,686	30,478
法人税等	—	14,100	—	14,100
当期一般正味財産増減額	△3,080	22,144	△2,686	16,378
一般正味財産期首残高	244,834	1,419,089	295,377	1,959,299
一般正味財産期末残高	241,754	1,441,233	292,691	1,975,677
II 指定正味財産増減の部				
受取寄付金	10,900	—	—	10,900
一般正味財産への振替額	56,015	—	—	56,015
当期指定正味財産増減額	△45,115	—	—	△45,115
指定正味財産期首残高	156,792	—	—	156,792
指定正味財産期末残高	111,677	—	—	111,677
III 正味財産期末残高	353,431	1,441,233	292,691	2,087,354

注：受取委託料5,892,570千円は東京都からの指定管理委託料

第5 協会の機構

協会の機構は、議決・監督、執行、諮問、監査及び協力の5つの機関から構成され、その組織及び任務は次のとおりである。

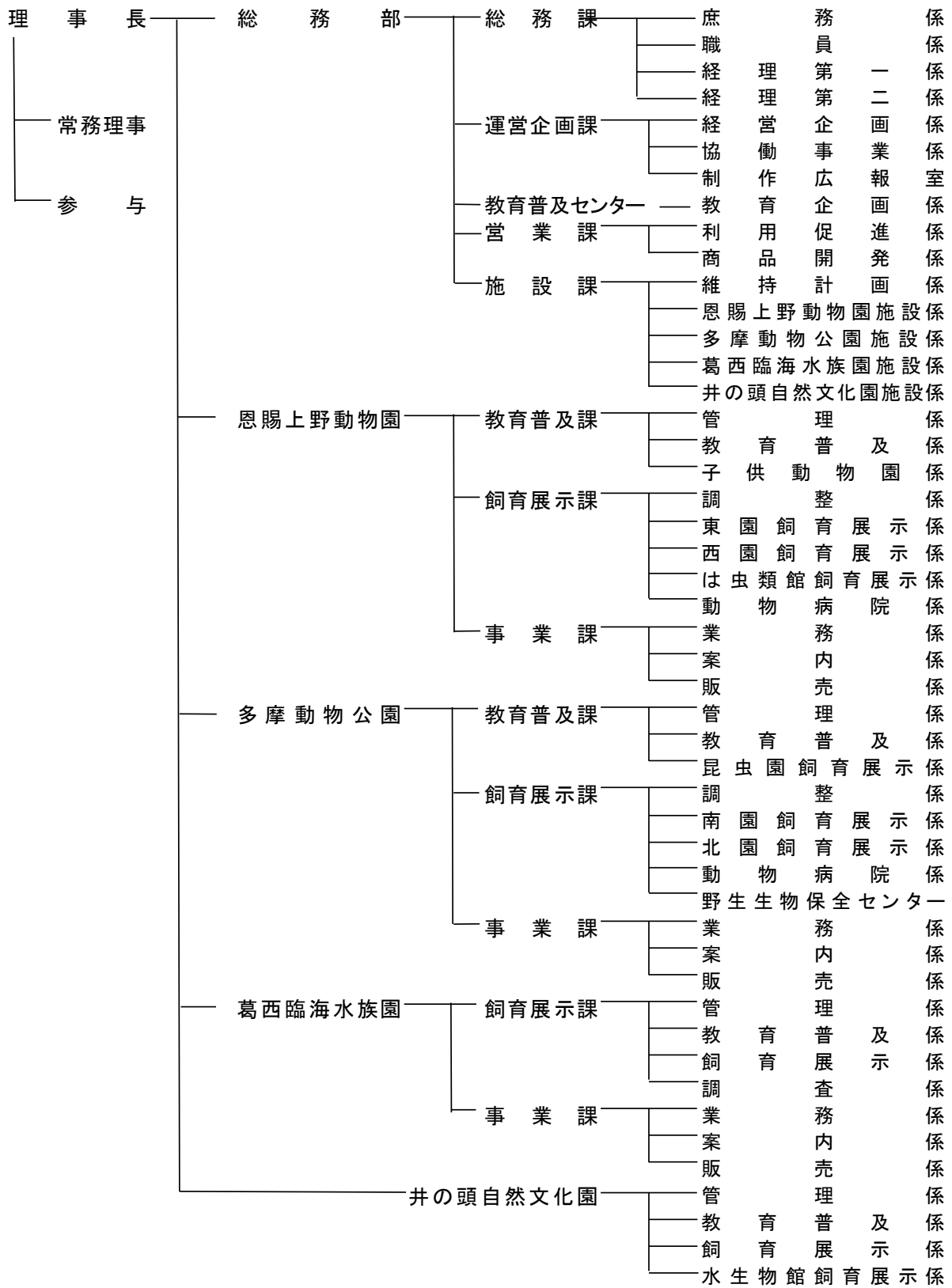
○ 総 裁 常陸宮正仁親王殿下

○ 会 長 貫 洞 哲 夫

○ 機関名称及び任務等

機関名	組織名	任 務 等
1. 議決・監督機関	評 議 員 会	理事及び監事の選解任、定款の変更等、協会運営に関する重要な事項を決定するとともに、決算の承認等、理事の業務執行を監督する。
2. 執行機関	理 事 会	事業計画、予算の議決等、本協会の業務執行を決定する。
	理 事 長	本協会を代表し、その業務を執行する。
	常 務 理 事	理事長を補佐し、本協会の業務を分担執行する。
	参 与	理事長が委嘱した特定事項を処理する。
	事 務 局	事務に従事する。
3. 諮問機関	顧 問	理事長の特別な諮問に応える。
4. 監査機関	監 事	業務執行及び財産の状況を監査する。
5. 協力機関	賛 助 会 員	理事会が承認し、規定の会費を納入する者
	特 別 会 員	功労者の中から理事会が推薦した者
	準 会 員	東京動物園友の会会員

【事務局組織】



【事務局職員数】

(人)

固有職員			都派遣職員			合 計		
職 員	嘱託員	計	職 員	再雇用	計	職 員	嘱託員 再雇用	合 計
206	138	344	103	0	103	309	138	447

(平成 31 年 4 月 1 日予定)